

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590400051		
法人名	医療法人社団慈生会		
事業所名	グループホーム華房福栄		
所在地	萩市大字福井下3507番地の1		
自己評価作成日	平成27年5月27日	評価結果市町受理日	平成27年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年6月29日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で暖かい雰囲気大切にしています。家事やレクリエーション、外出などを日常生活に組み込んで残存機能を活かしながら自立に向けた支援を行っています。天気の良い日には一緒に散歩に出かけたり、畑に行ったり水やりをしたり等戸外での活動も行って頂いています。職員はそれぞれ有資格者であり、専門性を活かして、入居者様お一人おひとりに対していつも柔軟な対応ができるよう心掛けています。又、運営母体の医療法人と連携し、利用者の体調管理や健康維持への助言・指示を受けて心配事等の改善・軽減を図る支援を行っています。日々の変化や様子、受診結果等はご家族にその都度説明を行い、つながりを常に持つ事で安心頂ける様に配慮しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

災害時対応として、平成26年5月に地域の行政推進員と地域住民で構成される地域協働会議を設置され、定期的に会議を開催しておられ、災害対策について話しておられる他、夏祭りなどの事業所の行事についても意見交換をしておられます。災害時の緊急連絡網に地域の行政推進員が加入され、自動通報装置にも組み入れておられるなど、地域との協力体制を築いておられます。運営推進会議の話し合いの中で出された意見を活かして、職員体制を柔軟に変更して、誕生日に外出をするなど、外出の機会を増やす支援に取り組まれています。職員全体会議や個人面談時、日常の業務の中で職員が意見や提案を言えるよう雰囲気づくりに努められ、行事時の人員配置、勤務体制の変更、内部研修のテーマについてなど、職員の意見や提案を運営に反映させておられます。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の玄関、事務所内に理念を掲示すると共に、職員の名札の裏にも入れ、職員全体で理念の共有化を図り、日常業務の中で自立支援の実践につながるよう努めている。職員1人1人に管理者が面談を行い実践状況を確認している。内部研修にテーマ設定し、職員全員で話し合い理解を深めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。内部研修で年1回、理念について取り上げて話し合っている他、職員会議時や個人面談時、日常業務の中で理念について話し合い、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と地域協力会議を定期的実施し積極的に意見交換を行っている。職員は地域職域親睦球技大会に参加している。ボランティアの訪問は隣接する同法人事業所より声を掛けていただき交流をしている。自治会に加入し、広報誌を定期的に配布頂ける協力体制が有り、事業所の取り組み内容や行事等を地域の方にお伝えしている。	自治会に加入し、総会や懇親会、草刈り作業に拠点施設の関係者が参加している。地域の親睦球技大会に職員が参加し、交流している。2ヶ月に1回発行する事業所だよりと年2回の号外を自治会に配布している。拠点施設合同の夏まつりには、多くの地域の人や子どもたちの参加協力があり、交流している。ボランティア(大正琴、踊り、フラダンス、歌、よさこい)の来訪がある他、小学生が来訪して神楽舞、歌、ゲームなどで利用者と交流している。散歩時や買い物時に地域の人達と挨拶をかわすなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域住人との地域協力会議の場で事業所で出来ることを提案したり意見を頂きながら協議・検討の機会を設けている。地域の意見や希望に応じて認知症の人の理解や支援の方法を広めていける様に努めて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者より評価の意義を説明し、全職員で自己評価に取り組み、検討しまとめる。前回の外部評価結果については、改善策を話し合い、見直しをして今後のケアに活かせるよう取り組んでいる。	管理者が評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布し、申し送り時や業務の合い間に話し合い、記入したものを管理者と計画作成担当者がまとめている。評価を活かして地区行政推進員と地域住民6人による地域協力会議の充実に努め、行事の協力や夜間時の災害等の協力について話し合い、緊急時の連絡網に地域の行政推進員が加入して地域との協力体制を構築するなど、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、利用状況、活動、外部評価結果等について報告し参加者の方と意見交換をしている。又、年2回消防関係者に参加頂き、非難訓練への地域の呼びかけ、災害時の避難等についての意見交換を行っている。	2ヶ月に1回開催し、活動報告、利用状況、外部評価結果、食事、介護報酬の改正、防災訓練について話し合っている他、市の防災担当職員の参加を得て土砂災害訓練を実施している。メンバーより外出支援についての意見があり、職員体制を変更して、外出支援の機会を増やすなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の利用状況の報告や介護保険の更新の手続き時の連絡等に協力頂いている。毎月1回地域ケア会議にて同法人事業所代表者が状況報告を行い、日常の相談にも応じてもらう等、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	市の担当者とは、運営推進会議の他、出向いたり、メールや電話で相談して助言を得たり情報交換をしているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、地域ケア会議で情報交換をするなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成している。法人が開催する研修にも参加し抑制、拘束の無いケアに職員全体で取り組んでいる。玄関は開錠し入居者様が外に出られたい時には一緒に散歩し気分転換を図る等で思いをつかめる努力をしている。	マニュアルがあり、法人研修や研修DVD、内部研修で学び、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関に施錠をしないで外出したい利用者とは、職員と一緒に出かけている。スピーチロックについては、管理者が指導している他、職員間でも話し合いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人が開催する研修に参加し、職員全体で共有している。参加が難しい者は研修DVDを視聴して復命研修を行っている。日頃よりケアの有り方について職員間で相談しながら一人ひとりを尊重した支援を展開し虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修にも参加の機会を今後設け職員全体が周知し制度を活用できるように理解していきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明に沿いながら当事業所に出来ること、出来ないことの説明をしている。重度化、看取りについての対応、医療機関との連携体制についての説明をし家族の理解を得ている。改定時には書面で家族に報告し説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料の支払い時や面会時、運営推進会議等で家族からの意見や要望が聞ける体制を取っている。又、自由に意見が聞けるよう意見箱を設置して。玄関に苦情相談窓口及び、外部機関を明示、苦情処理の手続きも定めている。	契約時に相談、苦情受付体制や処理手続きについて家族に説明している。毎月の利用料の支払い時や運営推進会議時、面談時、電話などで家族から意見や要望を聞いている。ケアに関する要望には対応している。運営に反映させるまでの意見や要望は出していない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部に委員会を設け、委員会活動を行っている。月1回の職員全体会議の中で委員会活動報告や職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は職員一人ひとりの面談を定期的に行い、意見が気軽に出来るように心掛けている。また、在宅療養支援部内での勤務異動が有り、異動してきた職員の意見も参考にしている。	月1回の職員全体会議や年1回の個人面談時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は申し送り時や日常業務の中でも意見や提案を聞いている。行事等に係る職員の人員配置や勤務体制の変更、内部研修のテーマの希望など、職員の提案や意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も常に現場に出て勤務状態の把握や職員の資格習得に向けた支援、環境作りに努めている。健康診断は年2回実施されており、心身の体調管理も配慮されている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は必要時には参加、場合によってはDVD研修を行っている。内部研修は毎月職員全体会議で各職員がテーマを担当し学習の機会を設けている。外部研修は勤務の一環として参加し受講者は研修後復命している。	外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命し、資料は回覧している。年1回の法人の各事業所合同の研修発表会にも参加し、受講後は復命書と資料を回覧して共有している。内部研修は月1回、職員よりの提案を取り入れて、理念、接遇、ケアプラン、身体拘束、転倒、誤嚥時の対応、心肺蘇生の訓練などについて実施している。新人研修は1週間の法人研修後、日常業務の中で先輩職員が指導して、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加することで、交流機会を設けている。 昨年開催した夏祭りでは、地域の介護施設より夏祭りの運営の手伝いに来て下さっている。こちらからもイベントの際は手伝いに行き相互に交流する機会を持っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いや要望等しっかりお聞きし説明した上で事前に見学をして頂くなり、ご希望があれば訪問させていただき、不安な思いを取り除けるような対応を心掛けている。気軽に思いを言える雰囲気作りを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の思いや考え、要望等傾聴し、安心していただけるよう十分な説明を行いながら、より良い方法を一緒に考える機会を大切にしている。気兼ねなく相談できる信頼関係が作れるよう努めています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いを十分にお聞きし、現状を見極めた上で必要とされる支援を介護支援専門員を中心に主治医、地域包括支援センター、在宅介護支援事業所等と連携し、他のサービス利用の検討にも努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な生活環境の中で、それぞれができることできないこと、やりたいこと、やりたくないことを聞き取り、見極めながらそれぞれに役割をもって頂き、皆で協力しながら出来るだけ自立に向けての支援ができるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料の支払いや面会時に入居者様の生活や身体状況を報告し、意見や要望をお聞きしながら必要と思われる支援について一緒に考える機会を設けている。行事等のご案内もその都度行い一緒に楽しんで頂ける機会作りにも努め、ご家族との関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力して頂き、食事に出掛けたりされている。ご近所の知人の方も面会に来て頂いている。誕生日に自宅付近で外食し、ドライブを兼ね、自宅に寄って窓越しに景色を楽しんで頂いている。新聞の広告から昔の知人を思い出された事が有り、思い出の場所にお連れしている。	親戚の人や友人、知人の来訪がある他、自宅周辺へのドライブや電話の取次ぎの支援をしている。家族の協力を得て外出や外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格等理解した上で対応している。お互いに支え合って生活される雰囲気作りを大切にしている。気の合う方同士が肩を寄せ合って談笑されたり、お互いの事を心配し合って生活されておられる。孤立しやすい方には職員が間に入りながら関係づくりに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院されたり、他施設に入所された入居者様やご家族に対し、情報の提供を十分に行い、次のサービスがスムーズに受けられるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を大切に、会話の中から思いを汲み取れるよう努めている。言動や行動をケア記録、ケース記録に記入し職員間で情報を共有し、検討しながらケアにあたっている。個々のケアへの検討頻度については今後考えていきたい。	入居時にセンター方式のシートを活用して、生活歴や得意なこと、嗜好などを把握している他、日々の関わりの中で、本人が言った言葉と職員が推測したことを白と黒の丸で区別して「ケア記録」に記録し、それをセンター方式のシートにまとめて「ケース記録」にし、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。外部研修で「思いの把握」について学んでいる。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他の事業所や介護支援専門員からフェースシート等の情報提供により生活歴や病歴、職歴、趣味、家族構成等把握している。又、ご家族や親戚、知人等の面会時にもお話を聞き、それらの情報を分析しながらこれまでの環境に近づけるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の食事、水分摂取量や睡眠、排泄状況、言動、体調の変化、サービス項目等をケア記録やケース記録に細かく記入することで職員全員が把握し、その方に応じた必要な支援が提供出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様毎に職員の担当制を設け、介護支援専門員と共に入居者様、ご家族からの意見や要望をお聞きし、全職員の意見を参考にしながら介護計画立てている。2週間、1ヶ月毎のアセスメントを実施している。3ヶ月毎に評価や見直しを行い介護計画への反映に努めている。プランの変更・作成時には職員全員に目を通してもらっている。	利用者を担当する職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして、計画作成担当者と全職員が話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態の変化や要望に応じて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子を記録し行動や反応、言動等それらのことに対する支援方法をケース記録に記入し、2週間毎に現状の課題分析するとともに朝夕のカンファレンス時、状況を報告、把握している。3ヶ月毎に介護計画を見直しケアの実践・結果、気づきや工夫が反映できるよう努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節に合わせて外出や、天候の良い日にはドライブ等に出掛けている。又、定期受診以外にも体調不良時には医療機関に連絡し受診することで不安の解消をしている。又、要望があれば理美容院の手続き、買い物等柔軟な対応を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容院の定期利用をしている。又、消防訓練や施設の行事等に参加して頂けるような体制を構築しながら地域に馴染めるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望、同意を得て協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回の受診や夜間、緊急時の受診が受けられるようにしてあり安心して頂いている。又、他科受診が必要な時にはご家族に協力を得ながら適切な医療が受けられるよう支援している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、事業所が月1回受診の支援をしている。受診時には「外来受診票」によって情報を主治医に伝えている。他科受診は、家族の協力を得て支援している。受診結果は、家族に電話や面会時に知らせ共有している。職員間では「外来受診ノート」や「申し送りノート」に記録し共有している。緊急時には協力医療機関へ連絡して、指示を得ているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り時に日中・夜間の状況変化を報告し必要に応じて事業所に配置されている看護師と相談しながら適切に対応している。母体の医療法人と24時間の医療連携体制をとり、場合によっては主治医に相談しながら指示を受け、適切な受診や看護対応が行えるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の医療機関とも連携しており、家族は安心されている。面会時やご家族からの情報収集に努め医療機関、ご家族、入居者様、事業所を交え十分に検討し今後の方針を決めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期のケアに関しては事業所の方針をご家族に説明している。重度化した場合は、早い段階で主治医、ご家族、職員で方針を話し合い、法人の医療機関とも連携を図りながら適切な医療が受けられるようにしている。	「重度化した場合における対応に係る指針」に基づいて、事業所でできる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から家族や主治医、看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を共有して、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告、ヒヤリはっと報告書を整備し、法人のリスクマネジメント委員会へ参加している。一人ひとりの状況を観察し、職員全体で改善策を検討し事故防止に取り組んでいる。全職員対象の応急手当や初期対応の訓練は定期的を実施するよう研修予定に組み込んでいく。	事例が発生した場合は、その場の職員で対応策を話し合い、ヒヤリハット、事故報告書に記録し、申し送り時に説明して共有している。月1回の職員全体会議で再検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生に備えて、消防署の協力を得ての心肺蘇生とAEDの使用訓練を実施している他、内部研修で年5回、救急車の利用法や体験談を聞いたり、看護師の指導を得て誤嚥や転倒、感染症などについて学んでいるが、すべての職員が実践力を身につけているとはいえない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルがあり、年2回地域の消防関係の方も参加頂き、夜間想定避難訓練や消火器の取扱いの研修をしている。運営推進委員の方にも協力を頂いている。地域協力会議にて「地域協力員連絡網」を作成。今後の訓練で連絡網の運用を試行する予定。	年2回、消防署の協力を得て、3事業所合同で夜間想定火災時の消火通報避難訓練を実施している。平成26年5月に災害時対応の地域協力会議を設置し、定期的開催して夜間の火災や災害時の協力について話し合いをしている。災害時の緊急連絡網に地域の行政推進員が加わり、自動通報装置にも組み入れている他、地域の人と事業所の災害対策に関する話し合いや具体的な支援体制の整備に取り組んでいるなど、地域との協力体制を築いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人主催の接遇研修に参加し、日々の関わりの中で入居者様の立場に立った対応を常に心掛け、人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉使いや声かけには十分気を付けている。又、不適切な対応があった場合はその都度職員同士で注意して改善していくように努めている。	内部研修で接遇について学び、職員は一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応等があれば、管理者が指導している他、職員間でも話し合いをしている。守秘義務は遵守し、個人記録の取り扱いに注意しており、個人面談時に確認している。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様と共に生活し、行動することで個別にコミュニケーションを取りながら信頼関係が築ける雰囲気作りに努めている。言語や聴力障害のある入居者様に対しては非言語的表現や筆談等を取り入れ入居者様の思いが聞き取れるようにしている。思いや希望を引き出しご自分の気持ちに沿った生活が出来るような支援に努めている。	/		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分等を十分に配慮し、入居者様の思いを尊重しちょっとした発言を聞き逃さず、希望される事が行えるような雰囲気作りに努めている。散歩やドライブ、体操、レクリエーション、おやつ作り等行い、柔軟な対応に努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院の利用は馴染みのところにいけるようご家族に協力を仰ぎながら実施している。又、地域の理美容院に要望があれば取りまとめ来訪して頂いている。又、外出時等には、ご本人に会ったおしゃれが出来るよう助言や必要なお手伝いを行っている。日々の整容・身だしなみにも配慮した対応を行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は食材提供サービスを通じての食事の提供となっている。時にはご家族からの差し入れ、敷地内で収穫したものや季節感のある食材を提供することもある。職員は同テーブルで会話をしながら食事し、後片付けやおぼん拭き等出来ることを職員と一緒にしている。調理の機会も設け食事の楽しみを感じて頂ける時間も大切にしている。	三食とも配食を利用し、ご飯と汁物は事業所で調理している。家族からの差し入れや事業所の畑で収穫した旬の野菜などを使って一品調理することもある。利用者は職員と一緒に下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳などできることをしている。利用者と職員は同じ食卓を囲み、会話をしながら食事をしている。季節の行事食、おやつづくり(白玉団子、豆腐団子、ぜんざい、ホットケーキ、どら焼き、クッキーなど)、誕生日の夕食を楽しんでいる他、家族の協力を得ての夕食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様お一人おひとりにあわせた食事形態や、その日の体調を考慮し食事量を調整している。法人の医療機関とも連携を図り、飲水量、栄養指導、食事制限等の指導を受けている。水分、食事摂取量状況の記録も残しており職員全員が状態を日々把握・共有しながら必要な支援につながるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きや義歯洗浄の声かけ、介助により、残渣物や義歯の確認を行い口腔内の清潔を保てるようにしている。口腔内の状況等も観察している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせて紙パンツや尿取りパットを使用し、夜間はベッドサイドにポータブルトイレを設置している。入居者様お一人おひとりの排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行いトイレでの排泄に心掛けている。汚染時にはプライバシーに配慮しながら交換を行い清潔保持に努めている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンを把握し、プライバシーに配慮しながら言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便状況を確認して個々の排便状態を把握し、散歩や体操、適度な運動、水分摂取の促しをするなど、穏やかな自然の通便があるようケアをしている。排便困難な入居者様に対しては主治医に報告、指示を仰いでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個浴実施し羞恥心やプライバシーの保護に配慮している。一日置きに14時～16時迄とし、汚染時には調整を行い柔軟な対応を心掛けている。無理強いはせずタイミングを図りながら再度声かけをしたり、翌日に変更する等の支援を行い気持ちよく入浴頂けるようにしている。体調不良等で入浴ができない場合には足浴や清拭を行っている。	入浴は毎日、14時から16時までの間可能で、希望すればいつでも入浴できるようにしている。利用者の状態に応じて清拭、足浴、シャワー浴、リフト浴の支援もしている。ゆず湯や入浴剤を使って楽しく入浴できる支援をしている。入浴をしたくない人には無理強いをせず、時間変更や曜日変更、職員の交代、言葉かけの工夫をして個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調設備、換気機能、乾燥時期には加湿器等を利用し室温や湿度を快適に保っている。共有空間にソファを置き休憩がいつでも取れるよう設置したり、希望時には個室で気持ちよく休息できるようにベッド等の環境設備をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬情報を薬局より頂き個人ファイルに綴じ込み内容を一覧し副作用や用法や用量・目的が確認できるようにしている。服薬は個人の理解や出来る事に応じて介助を行っている。服薬変更時は状況を継続して観察し必要に応じて主治医に報告する等の連携を図っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴より趣味、嗜好を考慮し日常生活の中で、テレビ視聴、歌唱、風船バレー、体操、洗濯たたみ等、、お一人おひとりに楽しみごとで気分転換が出来るようにしている。集団で行えることや個別で行えることも大切にして日々内容を変えて行っている。いきいきと活躍できる機会や笑顔も増えた。昔を思い出す様な行事も積極的に行っている。	野菜づくり、水やり、野菜の収穫、洗濯物干し、洗濯物たたみ、雑巾がけ、モップがけ、おやつづくり、下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳、雑巾縫い、貼り絵、ぬり絵、転倒予防体操、事業所独自のリズム体操、風船バレー、テレビ視聴、脳トレドリル、音楽療法、うちわづくり、生け花、小学生との交流(神楽舞、歌、ゲームなど)、ボランティア(大正琴、踊り、フラダンス、よさこい)、編み物、足拭きマット作り、季節の行事(餅つき、節分、七夕まつりなど)、誕生日会など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の体調、動向等にあわせて散歩、近所への買い物等の外出を行っている。時期によって遠出ドライブに出掛けたり、受診後等には、市内をドライブする等支援している。又、家族の協力を得て、外食や馴染みの場所に行って頂いている。	散歩や買い物、花見(桜)、ドライブ(美術館、湯免など)、道の駅巡り(三見、萩往還、ウエルネスパーク)、誕生日の外食、家族の協力を得ての外食や買い物など、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族と相談し、預かりの合意を得て預かり金を保管している。外出や買い物に出掛ける際には見守りのもと、ご本人様が支払いが出来るような体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お一人おひとりにあわせて、電話の取次ぎやかけ方等支援している。自ら電話をかける希望があれば助言や支援をしている。手紙のやり取りを希望される方は居られないが、手紙が届いた際には本人様に手渡しして読んでもらっている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースは、自然な採光や風が取り入れられるよう天窓を設けている。玄関やトイレ、浴室、居室、食堂は同一線上にあり開放感のある作りとなっている。共有空間にはテーブルやテレビ、ソファが設置してあり入居者様が交流を持たれながらゆっくりとくつろげるよう工夫してある。季節感の有る掲示物や飾りをして気持ちよく季節を感じて頂ける雰囲気作りを大切にしている。	玄関には季節の花を飾り、壁には貼り絵の作品や行事の写真、「祭り」の歌を基につくった事業所独自の体操の表が掲示してある。リビングは天窓からの採光で明るく、ソファを3つ配置して、利用者の居場所となっている。温度、湿度、換気などに配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファを置き、それぞれ好きな場所でくつろげるように環境整備をしている。席の配慮はあるものの決めつけてはおらず自由に交流が持てるようにしている。テーブルの配置や席の位置等、入居者様同士が楽しく語られるように配慮している。お気に入りの居場所にも配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、これまで使われていた家具や、使い馴れたものを持ち込んで頂けるようお願いをしている。又、家族の写真、ご本人の作品、人形等を飾り入居者様が落ち着いて過ごせるように工夫をしている。	ベッド、ダンス、椅子、衣裳掛けスタンド、電話台、茶道具、ぬいぐるみなど、使い慣れた物が持ち込み、家族写真や手書きの短冊などを飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様お一人おひとりの行動や身体機能、生活環境、能力に合わせて、居住環境を工夫し、安全の確保を十分に考慮したうえで、できるだけ自立に向けた支援を行っている。どこが自分のお部屋であったりお手洗いがどこか等認識しやすい目印を設ける等工夫している。設備の使用法も必要に応じてお伝えしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 華房福栄

作成日: 平成27年 10月 15日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時、急変時、事故発生時の対応方法について計画的に研修を行っているが、いざ直面した場合に実践できる自信が職員一人ひとり十分とは言えない。	全職員がいざという場面で応急手当や初期対応を行え、自信を持てる研修を計画し継続実施する。	全職員が訓練・研修に参加する事ができる。自信の無い事、不明な事をテーマに研修・訓練を計画して対応方法・手順の理解を深める。管理者は職員の個人面談を定期的に行い、対応方法を確認する。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。